

レスリング選手の性格特性
—試合前後の情緒の変化とパフォーマンスの関係・K大学の場合—

**A study of relationships between characteristic traits and peak performances of wrestling players XI
-Further insight into reproducibility of characteristic traits' changes before and after the competition-**

朝倉利夫*, 和田貴宏**, 嘉戸洋***
大館信也****, 滝山将剛*

Toshio ASAKURA *, Takahiro WADA **, Hiroshi KADO ***
Shinya ODATE **** and Yukitaka TAKIYAMA *

ABSTRACT

Using the same method based on previous our reports (Asakura et al. 2005 ; Takiyama, 1988,1991,1992,1993,1994,1995,1996,1997), we reinvestigated the relationships between changes of characteristic traits and peak performances of wrestling players in the competition. In addition, the purpose of the present study was to confirm reproducibility of these our previous findings, which there are definitely relationships between changes of characteristic traits and peak performances in the competition. To address this purpose, we performed Y-G trait test for wrestlers (seven different weight classes belonged to K-University) at three times, i.e., before (ten days before the competition), just before (competition day) and after (thirteen days after the competition). The results showed two A-types, two B-types, one c-type and two E-types and peak performance in the competition were dependent on changes of variability of these characteristic traits. Based on obtained the results, we could confirm previous our findings. That is, most old wrestling players showed a D-type characteristic trait and they did not show typical characteristic trait changes just before the competition and there were deeply relationships to peak performances. Additionally, there were variable types of characteristic traits in recent young wrestling players and they showed definitely changes of characteristic trait scores before and after the competition. Take together the previous findings and the same present results, it is suggested that variable recent younger wrestling players' characteristic traits are probably dependent on changes of their circumstance (their daily life). Thus, variable training programs need to create for fitting to individual wrestling players' characteristic traits.

* 国士舘大学体育学部レスリング研究室
** JOC専任コーチ・筑波大学大学院
*** JOC専任コーチ・環太平洋国際大学
**** 自衛隊体育学校

はじめに

筆者らは、選手の競技力の競技力向上の重要な側面として「精神力を」取り上げてきた。即ち、特に格闘技においては、「技術力」や「体力」以上に競技の勝敗に直接的な影響を与えると考えられる「精神力」という選手の内面的な側面を科学的に、解析し、その結果をもとに、その重要性を強調してきた。即ち、我々が日頃よく経験するように、心理的（情緒的）な安定した状態でないと、せっかく身につけたことが、実際の場面において発揮できないという事態に立ち入るといふことである。一般にいう“あがり”の現象である。

選手の内的側面（心理的側面）を科学的に解析することは、現状においてはそう簡単なことではない。しかし、筆者らは、性格検査法として広く受け入れられ、その信頼性の高さで定評のある矢田部・ギルフォード（Yatabe・Guilford）YG性格検査（以下YG検査という）を用いて、動揺しやすい選手の内面を把握することに成功した。即ち、YG性格検査を使用して選手の心理的变化が著しく起こると考えられる試合（特に国際試合）前後で行い、両条件下での性格類型の者が、どのような情緒的变化を来すかについて調べる方法である。既にいくつかの観点で報告してきた。D-尺度（抑うつ型）、C-尺度（気分の変化）、I-尺度（劣等感）、N-尺度（神経質）の各尺度において試合前にマイナス要因への変化が競技成績に影響をおよぼしていることについて報告してきた。そこで、今回はその事実

の再現性を確認し、今後のコーチングに役立てようとするものである。

対象と調査方法

被験者は、平成18年12月21～22日、駒沢オリンピック公園総合体育館で開催された。第32回内閣総理大臣杯平成18年度全日本大学レスリング選手権大会出場のK大学選手でフリースタイル7階級（55kg級、60kg級、66kg級、74kg級、84kg級、96kg級、120kg以下級）に出場した選手7名を対象とした。

選手の情緒的变化については、前回と同様にYG性格検査を3回実施した。第1回目は、平成18年12月11日（通常練習後）、2回目は4階級（55kg級、60kg級、66kg級、74kg級）について計量当日の午前中12月20日及び、3階級（84kg級、96kg級、120kg以下級）については計量当日の12月21日、3回目は平成19年1月8日（通常練習後）に実施した。表1に、今回調査した7階級7人の

表1 第32回内閣総理大臣杯、平成18年度全日本大学レスリング選手権大会、K大学の7階級の氏名、階級、学年、年齢、過去の成績、今回の成績

| 氏名 | 階級 | 学年 | 年齢 | 過去の成績 | 今回の成績 |
|-----|-------|----|-----|-------------------------------------|------------|
| S・N | 55kg | 2年 | 20歳 | H17JOC杯優勝 | 1回戦敗退 |
| K・N | 60kg | 4年 | 22歳 | H17インカレ3位 | 3位 |
| H・T | 66kg | 4年 | 22歳 | | 敗者復活戦2回戦敗退 |
| N・T | 74kg | 4年 | 22歳 | | 7位 |
| T・T | 84kg | 4年 | 22歳 | H16全日本G74優勝 H18国体優勝 H17インカレ優勝 | 3位 |
| T・S | 96kg | 3年 | 21歳 | H16年JOC杯優勝 | 3位 |
| M・T | 120kg | 3年 | 21歳 | Bレスリング優勝 | 1回戦敗退 |

選手の氏名、学年、年齢、出身校、今回の成績、過去の成績を示した。今回の競技成績は表1に示したように団体総合8位、そして個人では7階級中3位2名、7位1名順位なし4名であった。今回の成績が、試合前後の情緒変化とどのような関係があったかを知るためにYG性格検査を実施した。その処理方法等は先の報告の通りである。

結果と考察

1. レスリング選手の性格特性について

結果は2点に絞ってまとめ考察した。

YG性格プロフィールの類型に準じ、得られた対象者7人の3回の性格プロフィールから大きく4つの類型に分類可能であった。その結果から、平凡型（A-型：平均型）を示した選手が2人（29%）、右より型（B-型：不安定積極型）を示した選手が2名（29%）、左より型（C-型：安定消極型）を示した選手が1名（14%）、左下がり型（E-型：不安定消極型）を示した選手が2名（29%）であった。（表2参照）

これらの性格類型の内訳から、注目されることは、すでに報告されているスポーツマンの性格の典型とされているD-型：安定積極型を示す選手が存在せず性格特性の分布が従来の報告とは異なるものであり、今日までスポーツマンとしては、どちらかと言えば異端視されていた性格特性を持つB-型：不安定積極型、E-型：不安定消極型を持つ選手が増えてきたことである。

表2 第32回内閣総理大臣杯、平成18年度全日本大学レスリング選手権大会、K大学7階級の性格特性の人数とそのパーセンテージ

N=7

| | |
|-------------|---------|
| A-型（平凡型） | 2名（29%） |
| B-型（不安定積極型） | 2名（29%） |
| C-型（安定積極型） | 1名（14%） |
| E-型（不安定消極型） | 2名（29%） |

この傾向は近年顕著であり、筆者らが、この研究を始めて以来10数年が経過したが国際選手として活躍している選手にもこのB-型やE-型の選手がみられた。従来はD-型の性格特性はスポーツマンに特有な性格特性として、一般的に、社会的外向、思考的外向、抑うつ性が少なく明朗で礼儀正しく、のんきで神経質でなく劣等感が少なく攻撃的で忍耐力があり活動性に富み、団体生活の適応性があり社会的な生活指導に富んでいると言われ競技者として最も好ましい性格であるとされてきたが、しかし、生活環境の変化と、時代の変化に適応して選手の内的側面において従来では考えられなかった性格特性を有する選手が出現し、選手の心理的側面において質的な変化が確実に起こっていることを顕著に示している。従って従来のパターン化した指導法や選手管理方法では対応できないことを示唆しており技術面、体力面での改変と平行して、指導者は常日頃から個人のパーソナリティを十分考慮しておかなくてはならない重要な課題である。

2. 情緒の変化と競技成績について

先の報告において、対象者全員の各尺度の平均値について検討を試みたが各選手の特徴が相殺され事実の解読が不可能であったことから、今回は各選手の特徴について、個々に考察することにした。付言すれば、今日までの日本人的な発想の原点として、物事すべて平均的にみようとする発想（中庸の精神）があり、成功する例が多かった。しかし、世界の頂点に立つための知見を得るためには、この発想がかえってマイナスで、他とは異なった特徴的なものに重要性が示唆される。そこで今回は先の報告と同様に対象者個々について考察することにした。

A-型について

図1、図2にA-型（平凡型）を示した選手のものを示した。

図1は、A-型を示した66kg級選手のH. Tのもの

のである（表1参照）。

選手のプロフィール：副主将（レスリング部の役員選手は部員による選挙で決定）、攻撃型の選手であるが少々巧緻性に欠ける。体重調整が上手くいけば3位以内入賞の力を保持している。情緒変化について、情緒の変化がマイナス要因であるD尺度（抑うつ性：度々ゆううつ、陰気、悲観的）、N尺度（神経質：心配性、神経質、ノイローゼ気味）が少しではあるがプラス要因に変化がみられる。また、C尺度（気分の変化：著しい気分の変化、驚きやすい性質）、I尺度（劣等感大：自信の欠乏、自己の過小評価、不適応感が強い）などの尺度においてプラス要因への変化がみられる。このことから精神的には良好な状態で試合に臨んでいたことがみられる。実際の場面では、1回戦において優勝者と対戦し接戦の試合内容であったが惜敗した。敗者復活戦（決勝に進んだ選手に敗れた選手は敗者復活戦において3位決定戦に出場できる）の2回戦において強引に攻撃したところを相手のカウンターを受け接戦であったが敗退した、「俗に言うレスリングに勝って勝負に負けた」という試合内容であった、精神面の充実と攻撃面のアンバランスが出た試合であった。

図2は、74kg級7位に入賞したN. T選手のものである（表1参照）。

選手プロフィール：通常は66kg級の選手であるが、チーム成績を考慮して階級を上げて出場。体力不足であるが粘りのある選手である。6位入賞が目標であった。情緒変化について、試合直前に情緒の不安定を示すD尺度（抑うつ性）C尺度

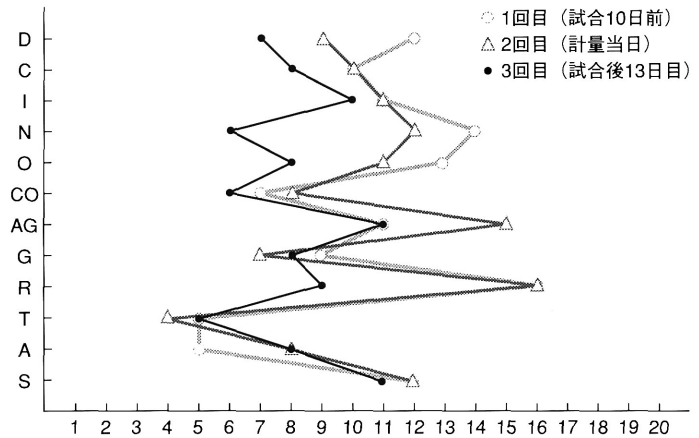


図1 情緒変化からみたA型の選手（H.T）

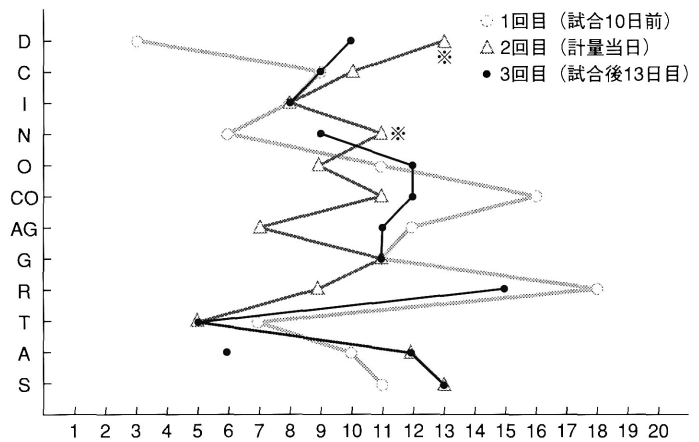


図2 情緒変化からみたA型の選手（N.T）

（気分の変化）、N尺度（神経質）がマイナス要因への変化がみられる。ことにD尺度（図2の※印）とN尺度（※印）が大きくマイナス要因への変化がみられる。実際の場面においては、階級をあげての試合であったが格下の対戦においては安定した試合内容がみられた。3回戦において強敵との対戦でも終始優勢な内容であったが終了間際やや冷静さを欠いた不合理な攻撃が相手のカウンター攻撃をまねき1点を失点し惜敗の試合となった。2分間での試合において最小点の1点の重みを痛

感した試合内容であった。精神面の充実を計り瞬時の判断力を養う必要性を示唆する試合であった。

B-型について

図3は、60kg級で3位に入賞したT.N選手のものである(表1参照)。

選手のプロフィール：高校、大学を通して常に上位に入賞する選手である。体力面の強化ができれば国内トップレベルの選手である。情緒変化について、試合直前に情緒の不安定を示す項目でD-尺度(抑うつ性)のプラス要因への顕著な変化が見られる(図3の※印参照)。一方、I尺度(劣等感)、N尺度(神経質)など2つの尺度においてマイナス面に変化している。これは試合に対する緊張感の高まりから来るマイナス要因をメンタルコントロールすることでマイナス要因を駆逐したものと推察され、これは選手の持つ試合経験の豊富さに由来するものと推察される。実際の場面では、3回戦において優勝した選手(今年世界3位)との対戦で惜敗したが普段からの対戦もあり、精神面では臆することなく充実した試合であった。敗者復活戦では安定した試合内容で3位に入賞した。

図4は、96kg級T.S選手のものである。

選手のプロフィールは：高校時代から重量級のホープとして将来を嘱望されている選手である(大会後の12月、新役員選挙において主将に選出された)。情緒変化について、D尺度(抑うつ性)、I尺度(劣等感)、N尺度(神経質)等(図4の※印参照)が大きくマイナス要因への顕著な変化が見られる。実際も場面では、1回戦では、優

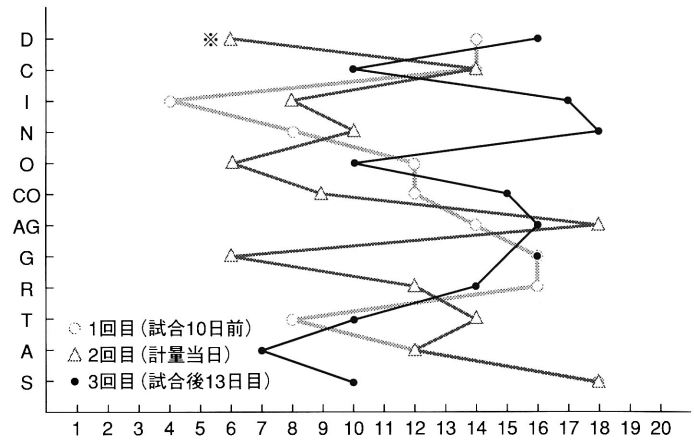


図3 情緒変化からみたB-型の選手 (T.N)

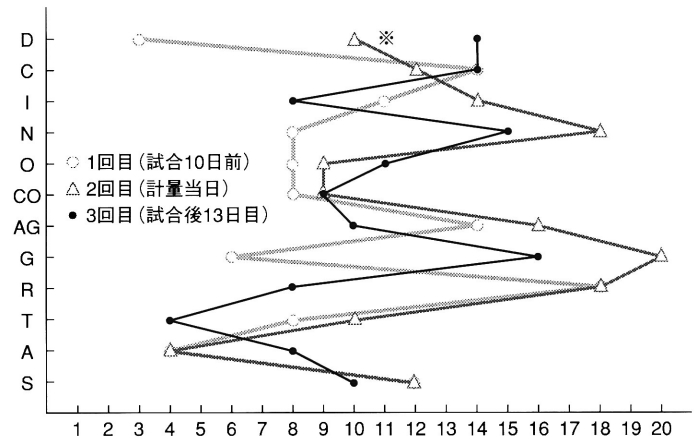


図4 情緒変化からみたB-型の選手 (T.S)

勝した選手と互角の戦いであったが敗退、敗者復活戦では、1ピリオド両者得点なしでトスの優先権の決定となりT.S選手が優先権を得て、クリンチから相手を持ち上げて場外近くに移動した際に自ら場外に踏み出すミスを犯し失点。2ピリオドは先取得点を挙げるが、不合理な動きで失点、ラストポイントを取られて敗戦。従来のT.S選手にはみられなかった試合内容であった。先の報告(平成17年度全日本選手権大会)でも対象者であったが、試合前の情緒変化はプラス面への変化が

みられた選手である。敢えて考察をすれば今年のT. S選手は怪我が多く十分に成績を残せず、傍目には理解できない選手自身の焦りからくる内面的な緊張感が精神面に作用したものと推察される。

C-型について

図5は、84kg級で3位に入賞したT. T選手のものである（表1参照）。

選手のプロフィールは：本学の主将で専門のグレコローマンスタイル74kg級において全日本選手権大会で優勝経験があり、学生の大会では連続優勝している。また、国際大会においても入賞経験がある。北京オリンピック大会のホープの1人である。情緒変化について、試合直前に情緒の不安定を示すD尺度（抑うつ性）において少々マイナス要因への変化がみられるが、C尺度、I尺度、N尺度などはプラス要因へと変化していることがみられる。このことから精神面においては十分なセルフコントロールがなされ、適度な緊張感を保持しながら試合に臨んだものと推察できる。実際の場面では、準決勝において接戦で惜敗したが、敗者復活戦については安定した試合内容であった。1階級あがりの試合であり、しかも、自分の専門種目ではないフリースタイルでの試合であることを考慮しても決勝戦には出場する実力を保持した選手であり試合内容からみて精神面では全く安定していた。これは国際大会で活躍することで経験から得た精神面の強さが身に付いたものと推察される。

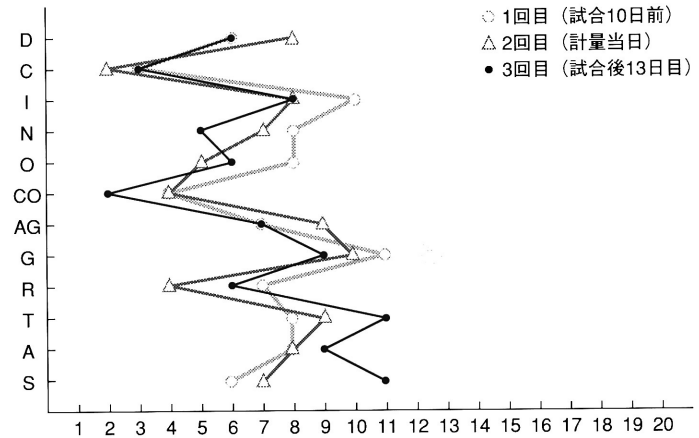


図5 情緒変化からみたC-型の選手 (T.T)

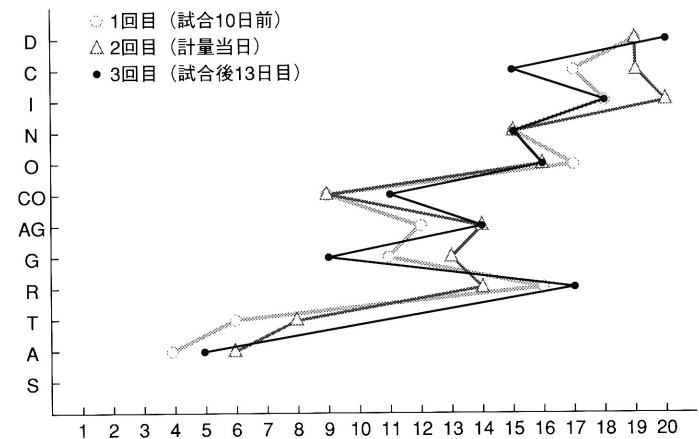


図6 情緒変化からみたE-型の選手 (S.N)

E-型について

図6は、55kg級S. N選手のものである（表1参照）。

選手のプロフィールは：高校時代から50kg級で各種大会において活躍している選手である。情緒変化について、先の報告では、スポーツマンとして、ややもすれば異端視されてきた典型的なE-型（不安定消極型）の選手である。C尺度、I尺度においては少しのマイナスへの変化がみられる。今大会は格上の選手との対戦であったが、不幸にして怪我にみまわれ十分に力を発揮できなかった

が、普段の試合では、際立った技の切れを見せる選手である。普段は物静かで消極的な面に少々欠けるところが見受けられる反面芯の強さを保持する選手である。

E-型を示したM、T選手については十分な資料が得られなかったので考察から省くことにした。

ま と め

第32回内閣総理大臣杯平成18年度全日本大学レスリング選手権大会出場のK大学レスリング選手(7階級7名)に対するYG性格検査から、A-型2名(29%)、B-型2名(29%)、C-型1名(14%)、E-型2名(29%)の性格類型がみられた。

これらは、B-型、E-型を示す選手が顕著に増加していた。最近のレスリング選手の性格類型が大きく変わってきている事実は先の報告を支持するものであった。本報告ではD-型を示す選手は存在しなかった。

試合直前の情緒変化について情緒的側面が、プラス要因への変化を示した選手の競技成績は好成績を納め、マイナス要因への変化を示した選手の競技成績は、概して不振であった。このことについても、先の報告を支持するものであった。

謝 辞

本報告は、体育学部附属研究所2006年度研究助成によって実施した。

引用・参考文献

- 1) 朝倉利夫・他；レスリング選手の性格特性、—試合前後の情緒の変化とパフォーマンスの関係—、国土館大学体育研究所報、第24巻、p.9～15、2005
- 2) 小林晃夫；スポーツマンの性格—性格からみた運動技能向上達—杏林書院、1986
- 3) 花田啓一・他；スポーツマン性格、不昧堂、p.83～92、1968
- 4) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性(第5報)—第24回ソウルオリンピック大会の試合前後における情緒の変化と成績との関係—国土館大学体育研究所報、第7巻、p.13～19、1988
- 5) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性—試合前後の情緒変化と競技成績との関係—日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、No II 競技力向上に関する研究、p.206～209、1991
- 6) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性—試合前後の情緒変化と競技成績との関係—日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、No II 競技力向上に関する研究、p.277～279、1992
- 7) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性—試合前後の情緒変化と競技成績との関係—日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、No II 競技力向上に関する研究、p.259～262、1994
- 8) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性—試合前後の情緒変化と競技成績との関係—日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、No II 競技力向上に関する研究、p.291～294、1995
- 9) 滝山将剛；レスリングの性格特性(第8報)、—23回内閣総理大臣杯全日本レスリング選手権大会における試合前後の情緒変化と競技成績との関係—K大学の場合—、国土館大学体育研究所報、第16巻、p.63～68、1997
- 10) 辻岡美延；YG性格検査手引き、日本心理テスト研究所、1978